いわき民報
平市田町四丁目八　電話三八一番
編輯兼發行人　千葉克巳
印刷人
日刊（但月曜を除く）
定價一月四十円　一部一円五十錢
發行所
いわき民報社

放送局昇格は有望

協會四主腦と關内代議士折衝

平放送局の昇格問題は期成同盟が先頭に立つて常磐各炭鑛関係など一体となつて運動しているが、地元出身の關内代議士も二十七日放送協會を訪問し專務理事古垣鐵郎、常務理事菅尾弘準、同横井愛二、經營部長地田幸雄の四主腦者と會見し、常磐地方が重要産業である炭鑛地帯であることを説明して昇格促進方を折衝したが、目下好意ある審議を進めつゝあり、見透しは頗る有望の模様で二、三日中に再會見することになつている、右について關内代議士は語る

放送局設置運動は全國的に展開され、協會でも慎重に困つているようだが、常磐炭田の重要性を認識しているから優先的に採用すると思う、若し放送局に昇格が出來ないとしても放送する設備とか、電波關係など考慮するのではないかと思はれる

町議が報酬投出して

中學再建に示す小名濱の熱意

町役三始め

去る十九日午後から翌朝にかけて吹まくった强風は小名濱と久の浦両中學校々舎を倒壊し莫大な被害に悩む町當局と町民を唖然たらしめたが、これに對し小名濱町では全町議と町長以下三役がその報酬を返上し再建資金の一部にして欲しいと決議して建設的活動をとうじた、小名濱町臨時會は二十七日午後二時より開き中學校々舎倒壊損壊について協議したが同校の損害は百二十万円、これに對し調査の関係殊設工事では町から八十万円の見舞金を希望し町當局はこの金額について活潑な議論あつたが町當局では見舞として五十万円の支出をすることにし更に名譽上の調査三箇組でもこの動態に十万円を拠出し計六十万円か一部関係殊設へ廻ることにしたがなお二十万円の差額があるので二町議より一學校倒壊當々町議も責任を有する、この場合町民に自からの責任を轉嫁して責任を逃げるのは忍び難いから町議は報酬をこの際投げ出して一刻も早く學校が完成するようにすべきだ…との動機があり全員これに贊成、更に樋口町長、長瀬助役野崎收入役もこれに同調して報酬を返上、これで十万円を作り合計調査者から八十万円の希望に對し七十万円を以つて應えることにし調査者側へ閉會した

縣内鑛は一日斷行

新賃金問題炭鑛の波狀スト

【既報】新賃金要求問題で二十三日から第二次波狀ストを市内各官廳、有識者等多數を招き盛大な総起式を總行するとことになつた

◇三十日茨城（九、四〇〇名）◇一日福島（二、七〇〇〇名）◇二日秋田、山形両縣（六、八〇〇名）

開拓農協連

支部發會式

來る四日丸トモで生國市内材木町に新事務所を構えた「開拓農業協同組合連合會石城支部」（支部長斉上春吉氏）ではいよ〳〵開拓者約七百八十余名を含む郡下各地區全協組の結成をも兼ねて來る十二月四日午前十時より

建築申請

臨時建築の本年中に

制限規則等改正に伴つて勞動組合の更生

施設に要する建築資材の割當申請事務の一部が從來各町村役場地方事務所で行つていたものが勞政事務所でも扱うことになつたので明年度第一四半期に行う勞働組合は本年度一杯までに申請する様や勞政事務所では要望している

小野田戸部兩鑛辭退

低品位炭で惱む炭住計畫

平復炭局では二十三年度下期に對する炭鑛勞務者住宅の割當を行つたが、最近低品位炭に對する政府の態度も積極的になつて來たから、割當を受けた小野田炭鑛（勞務者住宅十四戸更生施設六棟五十九戸）戸部炭鑛（勞務住宅十八戸）等は割當をもらつても採掘者も少く、低品位炭である以上復金からの融資も返濟出來ない（返濟期間十年）から割當辭退する旨平復局に申し込んで來たので局では經營者側の意向を共に組合側の意向もただした上態度を決めるが以前高萩炭鑛も同理由で割當辭退を申し込んで來たが、この様な現象があると今後、炭住割當申請の際各部局に不利益になる上湯の割當は困難なりとの批難もまぬかれぬため頭を痛めている

經營協議會で審議

小名濱臨鑛勞組側の强硬に

小名濱臨港鑛運勞組臨時大會は二十七日午後二時から小名濱港會議室に開き、去る十七日要求した賃上げ問題に就き種々協議した結果、百々の要求を一蹴するとは組合を無視する態度であると再度會社かわに交渉を行つたところ、會社側では要求に對し即答は難しいので來る二日の經營協議會に要求を受け答議することを約した

精工舍の時計

常磐屋時計店　平一（電三三九）

炭鑛人の卓球大會

一日午前十時

五日平商と三校で平石炭局管内体育連盟では本年指尾をかざる炭鑛卓球大會を來る五日午前八時半から男子部は平第三小學校講堂に、女子部は平高講堂にそれぞれ開くことになり、主將會議は一日午前十時半から石炭會館會議室に開く

◇全決勝

磐女A	2	1－1	2
		2－1	0 女商OB
	2	1－7	2

初氷

初氷はうすきけさ

二十九日朝平地方に初氷が張った、農試磯谷分場の觀測によると最低氣温〇、二七度、初氷は例年と大差ない又二十六日午前九時から十一時時ごろにかけ小名濱地方山岳部に初雪がチラ〳〵と降つた、昨年より雪は一週間遅い小名濱測候所こゝ三十七年間の統計によれば例年の初雪は十一月十八日が平均となつている

惡運つきた女白浪

執行猶豫中にまた空巣働き

二十八日午後三時ごろ伊達郡川俣町生れ住所不定無職中島文吉（二八）内妻戸樋よしの（二二）は市内長橋町市教育課長谷川政氏（五六）方留守宅から衣類三點を盗み裏口から逃走するところを折よく家女さきさん（五二）が發見して發見、隣家の菅野谷子さん（一九）の協力で取押え現行犯で市警へ突出した、同女は本年五月窃盜罪で川俣町警に挙げられ三年間執行猶豫中の者で去る二十四日には茨城縣磐城郡下大代村第七國敬食店から衣類三點を盗み中島が上野の間市で八百円でバラしその足で平に來て逃亡恐縣がつきたもの、なお長谷川氏宅では今年二度目の御難である

落盤壓死

麥の作付面積申告

平作物報告事務所では毎年實施している麥の作付面積の申告は十二月二日現在で漏れなく行う様各町村に要望指令を發した

摘發卵配給

市では三十日滝八用として摘發卵別一人一個の割で特配する、數量一百五個、關係の證明書を持參すればよい

同人誌

港の灯

小名濱町小野田氏ら十名が發起人になり同人雜誌『港の灯』を發刊する、毎月二十日發行で部數一ヶ月六十円、十月號から部刊する

第一校の球技大會

平第一小學校では二、三兩日學級別球技大會を開く

落盤壓死

勿來町大日炭鑛勿來炭坑で採炭作業中落盤の下敷になり即死した久助さん（三六）は三十七日正午ごろ勿來鑛坑内で採炭作業中落盤の下敷になり即死

祭

文化の働く者が

全遞平ブロック會議

全遞平ブロック會議の働く者の慰安文化祭は十二月四日久之浦劇場で開く、平地區勞、呉羽化學、日本水素、炭鑛公團、久之浦婦人民主倶楽部の合唱組も後援時に勞組平國鉄労働組に自立宣言等も賀助出演する

川又商店

襲げる

白絹洋服地等を市内白銀町株式會社川又商店（社長川又ハツ氏）では去二十七日夜半から二十八日暁までの間に全店内陳列台置いた白絹洋服地四十ヤード、ほか衣料雑品等四點計五百五千円相當を強盜されたので發見市警に届出た

いわき言

▽廃棄する方まで調べられる世の中本當の正しいのは誰かわからなくなりました

▽即繃理にまゝ遊捕狀が要求される食うに困つてのコソ泥の方は案外善人かナ

▽その中に世の中のすべてが現在のアベコベになるかも知れませんナ案を申した

東京平間定期貨物輸送開始

産業ノ復興ハ交通運輸ノ完璧ヲ期スル事ガ第一ト存ジ今回當地方ト東京トヲ直結シタル貨物自動車定期輸送ヲ開始スル事ニ致シマシタ

當社ノ信條ハ確實安價而モ「迅速」「確實」ヲ標榜シ「モットー」トシテ從業員一同最大ノ努力ヲ拂フ決心デアリマスカラ小ニカワラズ是非御用命ノ程御願ヒマス

昭和二十三年十一月二十九日

磐城貨物自動車株式會社
電話五二番六五二番

同　平　營業所
電話二八七番

東京出張所
平代田區神田鍛冶町二ノ一六
丸神運送店内
電話神田二二八番七一六番

中央區日本橋大傳馬町一ノ四
中央運輸株式會社内
電話浅草局五七九番

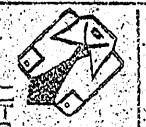
◎移轉お知らせ◎
本市彌宝町二五（一製材隣）平市四丁目八石の蔵に移轉致しました
磐城青果物何受販業協同組合

サンミュエル・ゴールドウエン
我等の生涯の最良の年
突入に
二週目共五十圓
（大人小人）
裡料
好評入場
我々の身近に感じられる此の映画は、二度見ても三度見ても見る度毎に何かしら教られるものがあります
聚樂館
電470

◇眼科開業◇
安田眼科醫院
院長　安田庄三郎
平市紺屋町五一（電九五四）
（生吉屋本店隣り）

文久助儀　病氣療養中の處二十七日午後六時二十分死去致しました、生前の御交誼を感謝し御通知申上ます
葬儀は三十日午前十時三十分自宅出棺大聖寺に於いて執行ます
昭和廿三年十一月廿九日
平市町
喪主　佐々木瑛光
外親戚一同

火災保險代理
大谷石商店
平市上商店丁目五
電話六六
不動産賣買



二丁目　電大〇五
ヤマカ
呉服
洋反物
衣料品

絶対に被害の保てる
常陽の幸運定期

天田愚庵と平藩學

史談會總會と史料展示會

史談會員　鈴木光四郎

磐城史談會が二十二年七月誕生してから滿一年を經過した。地味な歩であつたが研究に調査に相當な報酬をあげることが出來た。一月二十一日一周年の總會と第十二回例會を兼ねて史料展示會を八幡神社儀式殿に開いた。山森會長はじめ參會者。十五名學生六名であつた。最近火災に遭われた根本氏も出席された。十時猪俣氏の開會、會長の挨拶が行われ新に世話人としてしづく石太郎、菊地謙雄、篠原理男の三氏が追加指名され來月は鹿島裕の八代義定氏を訪ねることとした。十一時磐高教官中柴氏は天田愚庵のことについて次のように極めて有意義な講演をされたのである

▲天田愚庵と大須賀いん軒▲

天田愚庵は久五郎又は鐵眼と稱し平藩士天田半太夫の子として生れ藩學者神林せい齋の教を受けた。明治戊辰の役に別れた父母妹の屍を探ねて一生涯二本中を遍歷し數奇な運命の人として人生の悲哀をなめ晩年は和歌に漢詩に俳諧に獨自の境地を開いたのである。彼の生涯を大別すると

一、在京時代　安政元年から明治四年十八才で上京する迄の間

二、放浪時代　明治五年から明治一十年　三十四才で佛門に入るまでの間

三、京都時代明治三十七年　五十一才で死ぬ迄の時代

この三つの時代の期間ははぼ十七、八年であることは偶然である。愚庵の文獻は百數十にのぼつているが放浪時代京都時代のものが多く在京時代のものは少い。在京時代こそ彼にとつて不明の時代である。放浪時代は彼にとつて危險な時代であつた、即ち身体的にも境遇から云つても又性格的にも墮落する一歩前にあつたのである。彼の一生にとつて苦惱の時代であつた、この時代をつき抜けることが出來たのは彼が大成する所以であつた。愚庵の在京時代の資料は少いが、この時代を明にすることは郷土によつてのみなされるのである。遂くの人はこの點、誤りを犯す場合が多いのである。

▲愚庵の性格▲

彼の性格は幸子として万葉歌人として漢詩人として禪僧として書家として考えられるが一言にして云えば人間愚庵につきるのである。人間愚庵を貫くものは親に對する情愛人生に對する愛情が脈々として流れていることである。彼の性格は藝術人として歌人としてゆかしく表われている。彼は歌人としては正岡子規の先驅であると共に明治文壇の最高峰であつた。漢詩人としてもこの人ありと云われたのである。

▲愚庵と藩學▲

藩學外は愚庵と共を同うして上京し勉學した。學外を生んだ箱根の藩學は漢學と共に國學、國學がその基をなしていた。愚庵は外來の學問にふれることがなかつた。平藩學には國學の色彩はなかつた。當時平藩學は施政堂（後の佑賢堂）を中心としてその特長は地理、歴史方面にあつたことは鶴田氏、大須賀氏などによつて代表されている點から明である。平には國學、和歌の傳統は少なかつた。藩主には希に和歌を愛好したものはあつたが秀れたものでなかつた。内藤氏以來、壇林派の俳諧が盛であつたが士族階級には普及していなかつた。内藤氏は政樹の和算を中心とした數學を安藤時代までは續かなかつたのである。

▲愚庵と鄕土人▲

彼の一生は肉身の關係に於ては恵まれなかつたが交友には恵まれたのである。恩人として山岡鐵舟や清水次郎長との交友は有名である。然し石城の人々との關係は深くなかつたのである。僅に神林一門と眞水水竹の義弟である江政敏との關係があつたのみである。彼の佑賢堂以來の學友は猪飼、伊坂、伊藤の諸氏であつた。神林一門との關係に於ては復所その子せい齋、きん軒とが特に深かつたのである

▼神林一門の學問的傾向▲

復所は易學については深かつたが文藝方面では不充分な點が認められる。原たん山は復所の敬を受けている。復所の長子であるせい齋は弟のきん軒より藝術的才能が秀れていたのできん軒は兄の影響を受けた點が多かつた。愚庵は復所から學問をせい齋から漢詩の影響を受けたのである。きん軒は詩の方面に秀れていた愚庵の長も秀れた和歌の特色は石城の傳統の中からではなかつた。

當時石城の學界は復所一門と吉澤關。長木水竹の三つの流があつた。藩校の教授は櫻井、復所は名醫教授、きん軒水竹は教授の立場にあつたのである。平の藩校は八才から二十才迄の士族の子弟に教育した。そして老若を問はず漢學、史學、書道、武藝を教授したのである。愚庵も八幡小路の藩校で明治二年から四年迄二ヶ年間學び學友の伊藤と代表して湯長谷、泉の藩校と討論會に於て競爭したのである神林せい齋は彼の師でありきん軒は彼の先輩であつた書道は中柴氏の祖父、堤氏に習つている。

大須賀きん軒の詩は千一百五十余に及ぶが、愚庵の在平時代には漢學にふれたのみであつた。明治四年上京して落合氏に接してから國學にふれるようになつたのである。彼の歌は京都時代になつて光つて來たのであるが明治九年歸平した頃は次のように平凡なのであつた。

ふく風は問へて答えず菜の花の
いづこやもとのすみかなるらん

明治二十七年愚庵が巡禮日記を出版するに當つてきん軒は兄せい齋に代つて彼のために次のような序文を書いた。

先師せい齋生、墨木已　知我者、獨君子而已
共　何不爲我序之

明治三十年きん軒が「篇敬授時代に彼のために次のような詩を送つている。

狂けん誰所、裁ひよう幾
鐵唇士
巖上抱雲眠山雞啼不起

このとき子規が彼のために俳句を送つた。

墨消えて花ふる春の夕かな　子規

愚庵もこれに和して歌を作つたのである。

白雲の夕唇を山のその巖
のこけむす下に我は摩まむ
そ

愚庵の一生に良心的な神林一門の影響が多かつたことは確實である。彼は常に故郷平城を忘れなかつたのである。

年號出典

鶴沼孝昌

歴代の年號は、吉凶を意味し明治の如きは、易の繫辭上傳に「聖人南面而聽天下之政　嚮明而治」というよりとられ給ひしと承る。

正は「〇蓍日野其鶴鳴而實能止德大正也」と。

昭和は、書經（書經は支那のその當時の國勢を論じた書である）の驍頭に、支那の帝堯が國家を統治せる事情を下の如く述べて居る。「克く俊德を明かにし　以て九族を親くす。九族、既に睦しくして百姓を平章す。百姓熙明して萬邦を協和し、黎民が變り蒸蒸らく」と。茲に九族というはわが國の氏に當る。この九族が合して一姓となすので、吾が國には九族を親むすれば、國家が治まつたのである如く、支那は一姓より成るにあらず、數に百姓より成るが故に、更にこれ等の諸姓を平章しなければならなかつた。今日は百姓という言葉を一般人民の意味に用いるが、書經の百姓はいく多の姓族ということで、一般人民は即ち黎民である。

平章するというのは、諸姓の大小強弱に應じて、地位官職を與え、その勢力の均衡を保たせることを意味する。支那に於ては、この姓の對立が甚だ峻酷で、長い人類史であるが、支那の諸姓はわが國の諸氏の如く共國の祖先を認めなかつたからである。それ故に自己の同姓だけならば、血統關係で治めることが出來るけれどその血統は他姓の民に對してなんの權威もない。かくて像德を明かにしなければ、他姓と協和するを平章しなければ國内が協和しいな故に支那の政治は、古よりわが國に比べて複雜多端であり、從つて統治が困難であつた。所謂有德五主義はかくして生したるものにして支那に於ては最善の統治原則であつた。明治大正、昭和の年號は上記せる意味の出典故事より命名されたと承る。（長橋町四七）

婦人民生ク結成さっつ

支部長には加藤宣子女史

婦人の幸福のため自主的な生活確立を目途とする婦人民主クラブ平地方支部結成大會は二十八日午後零時半から平勞働會館に中央本部から櫛田小國兩女史を聘しての講演と併せて行つたが多數の若い女性が參集、午前中行はれた櫛田フヤ女史の「日本における婦人解放運動の歴史」に就いては明治時代の福澤諭吉を始め樋口一葉、田村山の三女性らの自由民權運動に不朽の足跡をとゞめた事實から現在に至るまで婦人の立場の向上に努めた人達の歴史を語り、小國チエ女史は中央における民主婦人協會、新日本婦人同盟婦人民主クラブ等の中央状勢から「主婦と生活」に就きことに婦人内職の實状を統計的に說いたが、私達はすぐにも物價の値下げ運動や婦人の内職確立につゝ强力な運動を展開せねばならないと力調整者に多大の感銘を與えた、なお午後の結成大會には議長に渡邊イシさん（四倉紡績）が推され規約等議を行い左の通り役員を選出した

◇支部長加藤宣子◇副支部長江畑澄子、阿部愛子◇書記長柴田幸榮

埠頭會社株の公募期日延期

小名浜埠頭株式會社の發起人會は二十七日午後一時より藩察會議室に開き公募株がまだ滿株にならないので公募期間を十二月十日まで延長することに決めた、なお當日は鈴木正町議の質問に應えて壯野日榮社長、志賀發起人代表は新會社の性格を次の如く確言した

◇新會社の許可は來週中には出る◇設備據置資金は復金から出る◇募株の見透しは期日まで滿株になる自信が充分ある◇若し町内で滿株にならぬ場合は小名浜以外から仰ぐ意志はない、必ず滿株になる見透しがある◇新會社は日本水産中心に運營するのではなく、獨立會社であるから流布されているデマは全く事實無根である

ネツミ退治のアメ配給延長

平保健所では今月一杯で終了ずる豪定だつた鼠退治のアメ玉配給は更に十日延長することに決めた

石原知事も大滿悦

石城農事協議會品評會に

石城農事協議會では二十八日神谷村農事試驗場に文化祭を兼ねた農産物品評會を開き部下の自慢品四百十七點のうち一等には

▽人參鈴木武政（好間）▽ねぎ鈴木健一（好間）▽甘藷川一（平）▽玄米大和田長治（平）▽大豆金成榮男（好間）

が入選したが同品評會を視察した石原知事も見事な作品に目を見張り特に石城地方のねぎ、牛ぼう、大根の質には驚ろき一だと大喜びしイモ作りの名人菊川さんの甘藷には「三株位かと思つたら一株とは驚いた」と感心し全國でもこんな見事な作柄はないだろうとの說明に滿悦して引上げて行つた、なお同協議會では二十九日午前九時より神谷村弘源寺に各お百姓さんが參集、今まで永い經驗で得た技術の交換會を開き資品の向上に資することにした。

法廷だより

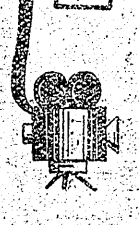
湯本町湯本常磐炭礦株式會社關係訴訟

鈴木政雄（二七）に係る物盜罪は懲役二年六ヶ月の言渡し後與賀に狂し九月中同鑛の倉庫を破り布風窯三十六枚、他ゴム長靴等十二万円相當を全部の少年（一七）を手先に盜んだもの

蜂の巣の子供たち

三十日から平東寶で上映

孤兒の樂園「みかえりの塔」の出身者であり復員者である條作は下駄ふとしたことから習公や義坊、嬰など八人の浮浪兒と仲良しになり新天地を求めて共々東への旅に立つ。そして時には彼等に惜切られながらも材木運びや醫田の作業、或は深山での伐木等々の修作のたゆまない愛の力は彼等の團結心を一段強くする。そして「母ちゃんの死んだ海を見ればこんな病氣すぐ癒るよ」と無理に海の見える山腹に登つて死んだ義坊を除き、遂に身寄りないまゝ終戰しかつ親に雄飛したい



幸福の限界

館界世一　30日

「妻なんて性生活をとるもなつた女中にすぎない」と言う結婚觀を堅持する近代娘由岐子「原節子」は二十年一日の如く個性をすてて夫に奉仕する母（田村秋子）や長い家庭生活をもたえ抜いたように新しい結婚に乘り込む未亡人の姉（市川春代）達の愛に益々その考えを堅くし、果ては戀人の劇作家龍吉（藤田進）に「私の處女を奪つて！」と絶叫させ結婚の形式性をのろう仕末であつた、この様な娘の姿に母も次第に個性をとりもどし遂に夫（小杉勇）と別居する。しかし結局由岐子や母が悟つたものは別なものであつた、「結婚の生活」をものにした石川登三の原作を「我が生涯の輝ける日」の新藤兼人が脚色木村恵吾が演出に當つた大映京都作品

戀愛特急

館平一　30日

小名濱港に給水栓增設——小名濱町では三千トン岸壁の給水栓が貨物荷揚現場の中心點にあつたため貨物船や漁船群が不便を感じているので作業場とは關係のない岸壁先端に今度給水栓を增設する

厚い因習のヴェールに包まれた東北の一地方にポス的存在を綴ける古谷（菅井一郎）は鐵道本線開通を期として神し寄せる新しい文化の波に抗して曰れの地位確保に必死のあがきを續けた、これに同調する穏健の老機關手久平（小杉勇）彼の息子一郎（原保美）は古谷の娘（津島恵子）とのことから勘當されたが今や近く開通豪定の本線新機關手として登場した、そして鈴鹿の花咲く美しい高原に來た許されぬ恋古谷の娘昌江を訪れた一方人民のストライキや、無問題で遂に脱落する新當思想の衝突をテーマに「われ泣きぬれて」に次いであし原正が演出に當つたもの

移轉お知らせ

今度左記へ移轉しました。何卒倍倍して御引立をお願い致します

各種時計眼鏡
貴金屬高年筆
販賣並修理

小名濱福本一
菅野時計店
菅野文榮

移轉お知らせ

毎度御引立を賜わり御座います
今度富ケ浦病院跡へ移轉しました何卒倍倍に增し御引立をお願いします

小名濱町中坪一八
店主　鈴木隆

出良之助酒店

さわやかな高原に
燃え立つ美しい希望と青春！

戀愛特急　館平　電460

主演　菅井一郎　津島恵子　原保美　小杉勇　吉川滿子　百合子　柳瀬弘　佐子

三十日より

純潔の處女が初めて知つた肉体の秘密
愛は性生活をとるなつた女中に過ぎないものだろうか？

幸福の限界　館界世　電5

主演　原節子　田村秋子　藤田進　小杉勇

三十日より

赤にも青にも染まる子供心！
清水宏が戦災孤兒を中心に撮影！
子供達の涙れを魂で描いた大傑作！

はちの巣の子供たち

脚本原作　清水宏

電920　平東寶

本場の自慢の牛豚肉

平驛前　緑屋商店へ

親切本位

電話七九四番